お茶高ー戸山高理系女子育成連携事業
【女性研究者にインタビューしてみよう】

この事業はお茶の水女子大学附属高校と都立戸山高校の生徒が共同で女性研究者にインタビューし、そこで学んだ内容をまとめ、全国の理系を志す児童、生徒に向けて発信するプロジェクトです。

ここでは戸山高校の情報コースの1年生6名がNTT社会情報研究所の主任研究員である藤村明子先生にインタビューした記事をご紹介します。

【藤村明子先生について】

今回インタビューを引き受けてくださった藤村明子先生は、戸山高校のＯＧであり、戸山高校卒業後は慶應義塾大学法学部法律学科および同大学院政策・メディア研究科を卒業・修了後、同年に日本電信電話株式会社（NTT）に入社されました。現在は育児と両立しつつ、情報セキュリティ、個人情報保護、プライバシー保護などの法律及び情報技術に関する研究開発に従事されています。

【インタビュー内容】

Q1：研究の際に大事なことは何ですか？
A1：自分の研究が、社会のどのような場所で、どのような人に喜んでもらえるかを具体的に考えることです。私はいま情報化社会におけるプライバシー保護の研究をしております。本来は人々に便利さをもたらすはずの情報処理技術ですが、使われ方次第では社会の誰かに権利侵害や金銭的損害を与えることもあります。人々の大切な情報を守りながらいかに安心安全な社会制度が構築できるか、異なる人々や組織の立場を踏まえつつ様々な角度から検討することが研究上とても大切な姿勢です。

Q2：研究の途中で、挫折してしまったらどうすればよいですか？
A2:研究の過程で、挫折を感じることはよくあります。そういう時は、目的を見失わないよう社会に常に関心を持っておくことも重要ですが、目先を変えるために自分の研究分野と全く異なる分野の論文を読んでみたり、漫画や小説、特にSF作品などに触れたりしています。そうして気分転換をすると、自分が考えていなかったこと、見落としていたことに気付くことができます。また、私の場合は友達といっしょに飲みに行くことも効果的でした。

Q3：研究をしていて他の研究室や分野の人に助けを求める際、どのようなことが重要ですか？

A3：研究分野が異なると、話がかみ合わないことがよくあります。どのような点を課題として捉えるか、何を研究の成果と認めていくかなど、話し合いには努力と忍耐が必要なこともあります。常に相手に敬意とリスペクトを持つこと、他の分野のことを知ろうとする意識が重要だと考えています。相手が大切にしていることを想像し、お互いの研究にプラスになることを想像しながら自分の意見を伝えるという誠意と姿勢があれば、対話が深まるのではないでしょうか。

Q4：研究をする際に特に重要なことは何だと思いますか？

A4：自分の専門分野を決めつけすぎないことだと思います。研究を進めていく上で自分の得意分野にだけ入り込みすぎず、常に広い関心を持っていくことが重要です。特に研究者として過ごす日々が長くなると、新しいことへの取組が億劫になってしまうこともありがちなので、そのようなことにならないよう気を付けています。

Q5：女性研究者として、研究の面で苦労したことはありますか？

A5：研究という仕事においては男性と女性の違いを感じたことはほぼありません。ただ、女性にはライフイベントとして妊娠と出産を考える場面がありますよね。私も仕事をしばらく休むことに不安がありましたが、育児休暇から復帰後の日々も夫と協力しつつなんとか乗り切ってきました。保育園や学童といった社会の仕組みも活用できますから、研究者を目指す女性も男性も自分のできることや役割を考え、夫婦が互いに協力し合うことが大事だと思います。また、職場には、育児以外にも介護や個人の事情を抱えながら働いている方々も大勢いらっしゃいます。仲間同士でお互いのことを思いやりながら働くことが大切ですね。

Q6:女性研究者としての強みがあれば、教えてください。

A6: これまで男性女性の強みの違いを意識することはあまりありませんでしたが、私自身は結婚と育児の経験を通し、一個人としてだけでなく、子供を持つ親、または子供自身の目線で社会がどう見えるかという視点を持つようになりました。それは情報化社会を生きる子供たちの保護をもっとしっかり考えるべきだという問題意識につながっています。これは女性としてのライフスタイルの変化が、研究に役立ったエピソードの一つです。

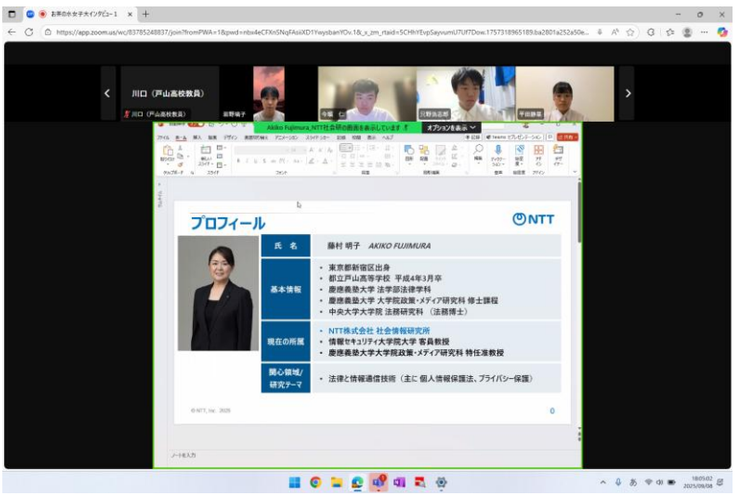
Q7：文系の科目が得意で理系の科目が苦手という人が理系文系の違いで周りの雰囲気についていけないときは、どのように考えれば理系の科目が好きになったり、理系の人と上手く関われるようになりますか？

A7：文系と理系の違いを面白がることが重要だと考えています。両者が言い争うのではなく、お互いに興味のあることや問題だと感じることを言葉で表現し、たとえすぐに結論が出なくても双方のはざまにあるものを１つでも見つけられたときが私にとってとても楽しい瞬間でした。友達同士で対話して、理系の科目が得意な人と自分との違いに落ち込むのではなく、なぜそれを面白い、好きだ、と相手が感じているのかをを理解しようとしてみてはどうでしょうか。仮に全く分からなくても関心の違いを面白いねって笑い合えればその瞬間が前に進むためのかけがえのない宝物だと思います。

Q8:理系の研究をしていながら、理系の科目が苦手なときの解決策と、自分が好きなことを貫き通す勇気はどこから湧いてくるのかを教えてください。

A8：英数国理社といった勉強科目の区分だけで自分の可能性を狭めないことです。私は高校生の頃から数学が苦手でしたが、いま情報分野の研究に身を置けているのは、私自身がそれでも、周りにプロフェッショナルがたくさんおられるからです。たとえ自分ひとりで完璧に文系科目や理系科目をこなせていなくても、周りを見渡せばすごい人がたくさんいるはずです。そのような人たちと互いに補い合うことで可能性が広がります。大規模な研究ほど一人では達成できず、複数の人間の協力が必要になります。なので、もし周りの人に「理系の科目が苦手なのに、どうして理系を目指すの？」と不思議に思われても、得意不得意だけで専攻を決めるのではなく、まず自分の研究したいことのテーマを見つけてみてはどうでしょうか。その中に文系と理系のどっちの要素も入っていれば、自分の得意ではないことは周囲の協力を仰げばいいし、自分も誰かを支えればいい。自分の好きなことに自信を持ち、自分のやりたいことを大切にしていけば自ずと勇気が湧いてくるのかもしれません。

【インタビュー中の様子】



【感想】

・今回、藤村先生のお話を聞いて、今まであまり見えていなかった研究に対する姿勢や重要なことがたくさん学べました。特に、理系の科目が苦手でも分野によっては理系の研究をされている先生もいらっしゃると知って、驚きました。また、研究で行き詰まっても、自分だけで解決せず周りの人の力を借りればいいという教えは、これから私が研究を進めていく中で大切にしていこうと思います。（戸山高校1年I.J）

・インタビュー全体で多くの身になる話を藤村先生にしていただけました。その中でも私は藤村先生の挫折に関する話にとても感銘を受けました。私自身、SSHの研究以外にも部活や勉強で挫折することが多くあります。その際になかなか立ち上がることができず、長い時間苦悩してしまうことも少なくありません。今回学んだ挫折への向き合い方を今後の様々なことに生かしていきたいと思います。改めて貴重な機会をありがとうございました。（戸山高校1年T.K）

【感想】

・今回のインタビューで研究で行き詰まってしまったときは、一度研究分野以外の趣味、遊びに集中してみることが大切で、研究し始めると不思議と進んでいくことがある、というお話が印象に残りました。今後研究で行き詰まってしまったときは、悩み過ぎないようにしていきたいと思います。また、高校生の頃の経験も今の研究に生きていると聞き、自分も将来のためにもSSHの研究をおろそかにせず、様々な経験を積んでいきたいと思いました。女性だからといって特別な困難も有利なこともあまりないそうで、その点に意外さを感じました。今回藤村先生の貴重なお話が聞けて、とても良い経験になりました。（戸山高校1年M.N）

・今回のインタビューから文系や理系の枠組みはあまり関係ないのだと知り、文理選択は形式的なものという新たな視点を得ることができました。また、研究がうまくいかないときは周囲の人と話し合うことで自分にはなかった新しい視点を取り入れることができるという話を聞き、今後の研究に活かして行きたいと思いました。
（戸山高校1年K.S）

・女性研究者へのインタビューを通して、当初イメージしていたよりも性別による差を強く感じずに研究を進められていることを知り、前向きな印象を受けました。また、研究が行き詰まった際には無理に一人で抱え込まず、リフレッシュしたり誰かに助けを求めたりすることが効果的だという話が特に心に残りました。研究活動では自分1人だけでなく環境や周囲とのつながりも重要であると気づき、自分自身の取り組みにも生かしていきたいと感じました。
（戸山高校1年I.R）

・今回のインタビューで、今まで自分になかった視点を得ることができました。特に、文系と理系の違いを面白がることが重要だというお話が印象に残りました。考え方の異なる分野の間で互いを完全に理解することは難しいので、まず違いや共通点を見つけることでそれぞれの研究を深めていけるのではないかと思いました。

（戸山高校1年H.S）

藤村先生、このたびはインタビューにご協力くださり、ありがとうございました！